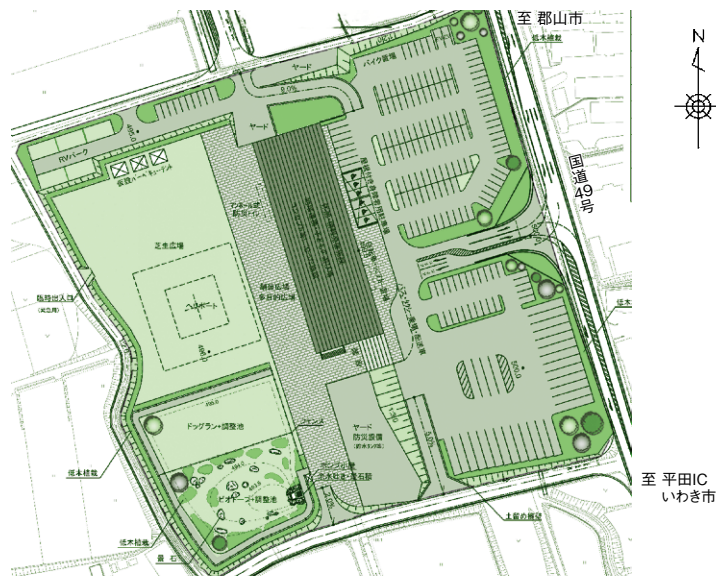




▲全体配置図（イメージ）

※この計画図は基本計画での参考であり、具体的な内容は今後の設計にて確定していきます。

# 「道の駅ひらた」移転再整備基本計画を策定しました

## 平田村の新たな交流・防災の拠点を目指します

新たな道の駅の実現に向けて、導入機能や施設規模、施設イメージをより具体化させるため、「道の駅ひらた」移転再整備基本構想をもとに「道の駅ひらた」移転再整備基本計画」を策定しました。

### 【背景と目的】

現在の道の駅は平成21年のオープン以来、多くの皆さんに利用され、平田村の農産物や特産品、観光情報を発信する拠点として親しまれてきました。

一方で、観光シーズンには駐車場不足による渋滞や施設の狭さが課題となっています。また、令和7年には県内2か所目となる「防災道の駅」に選定され、災害時の広域防災拠点としての機能強化も求められています。

このようなことから、平田村では「道の駅ひらた移転再整備検討委員会」を設置し、現在の道の駅の課題解決や、観光交流・情報発信及び広域防災拠点としての機能強化を図るための検討を進めてきました。



▲予定地から臨む蓬田岳

委員会では、令和7年8月に「道の駅ひらた」移転再整備基本構想」を策定、令和12年度中のオープンを目指し、これまで整備候補地、導入機能・施設の絞り込みなどの検討を進めてきました。

基本計画は移転再整備基本構想をもとに、新たな道の駅の実現に向けて、導入機能や施設規模、施設イメージをより具体化させるものです。

### 【道の駅のニーズと課題】

移転再整備にあたり、地域住民及び利用者のニーズを把握するため、基本構想及び過去の利用者アンケート等に加えて、道の駅「第3ステージ」としての方向性や国の動向といった社会的な背景を整理しました。

また、地域の抱える課題として、地域の活力低下や観光資源の十分な展開、施設面や交通面での問題、災害時の対応力強化、多様化する利用者ニーズへの対応など、様々な課題が挙げられます。

これらのニーズや課題に対し、移転再整備を通じて、対応や解決を図ることが求められます。

### 【新しい道の駅のコンセプト】

「自然豊かな里山の魅力を『味わい』『分かち合い』『守る』ことができる安心と賑わいの拠点づくり」このコンセプトのもと、次の5つを基本方針として整備を進めます。

- ①豊かな自然や景観を楽しむ施設
- ②地元食材や特産品の魅力を発信する施設
- ③人と人が交流できるにぎわいの空間
- ④防災機能を備えた安全・安心の拠点
- ⑤環境に配慮した持続可能な施設づくり

### 【導入機能及び施設規模】

新たな道の駅における導入機能は、道の駅登録要件、移転再整備基本構想の基本方針、道の駅利用者アンケート等を踏まえて設定しました。

駐車場の必要駐車マス数は、東・中・西日本高速道路株式会社「設計要領 第四集 休憩施設（令和5年7月）、国の「新「道の駅」在り方検討会」における実態調査等を参考に算出し、現状で課題となっている観光シーズンの駐車場不足も考慮して設定しました。

駐車場以外の施設規模についても、基本構想での整備コンセプトや現況の課題等を踏まえ、

NEXCO設計要領や類似施設の施設規模に関する文献、他の道の駅の事例等を参考に、事業用地内での全体配置、建物の平面計画を行い各施設の規模を設定しました。

なお、各施設の面積はプラン作成及び概算事業費算定のために設定したもので、今後の設計にて具体的に確定していきます。

施設には、広い駐車場（約200台）、農産物直売所・飲食施設、子どもの遊び場、情報発信コーナー、コンビニ（予定）、イベント広場、防災備蓄施設・ヘリポートなどを整備し、観光や地域交流、防災拠点としての機能を充実させます。

### 【事業・整備手法】

新たな道の駅の整備手法については、基本構想にて整理したように、道路管理者等の関係機関との調整を進めていきます。

なお、運営手法については、民間活力を活用することを想定し、公設民営による手法にて検討を行います。

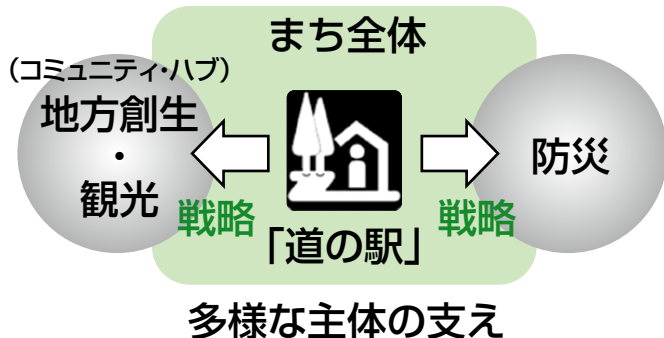
### 【今後について】

今後は基本計画をもとに詳細な設計を進め、令和12年度中のオープンを目指して事業を進めていきます。村民の皆さまに親しまれ、観光振興や地域活性化、防災力の向上につながる新たな拠点づくりを目指します。

◆計画の詳細については、平田村公式ホームページをご覧ください。



## 「道の駅」単体から まちぐるみの 戦略的な取組へ



### 「道の駅」第3ステージとは

「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携してコンセプトの実現を成し遂げる取組